

応答詞「はあ」と肯否応答体系

富樫純一 (大東文化大学)

1. 目的

- ・ 応答詞「はあ」(自然な下降調イントネーション)の意味記述。
- ・ 肯定応答と否定応答の体系化。「はい」「うん」「はあ」、「いや」「いえ」「いいえ」。

2. 「はあ」の先行研究

- ・ 森山(1989) — “聞き取り表示類”

「談話の促進としての聞き取り表示や続行指令、伝達停止といった、態度表明的伝達制御を行うものである。相手の談話の進行のさせ方に対するコメントであり、一種メタ的なとらえ方であると言えるであろう」(p.75)

- ・ 田窪・金水(1997) — “承認”の標識

「文頭に現れる「はい、ええ」等は、相手の発話を入力した承認の標識」(p.264)

- ・ 富樫(2001) — “半活性情報”とのリンク

「「はい」よりも「はあ」のほうが、link 形成の量(データベースへのアクセス頻度)が少なくなっているからであると思われる」(p.36)

- ・ 渡邊(2015) — メタファーによる意味派生分析

「「はあ」の別義1として〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問に対して〉〈ためらいながらも〉〈肯定判断をかしこまって示す〉と記述する」(p.91)

解決すべき問題として以下の点が挙げられる。

- (a) 「はあ」ははたして肯定か、そして意味記述
- (b) 何故かしこまった態度を示しやすいのか
- (c) 理論的枠組みと応答の体系化

3. 分析

3.1. 意味記述

(1)A ちょっと、聞いてくださいよ。

B はあ。

(2)A これ、コピーしといて。

B はあ。

(1)(2)は典型的な「はあ」の例といえる。肯定の応答として解釈が可能である。しかし、「はあ」が必ず肯定になるかというところではない。

(3)A ねえ、遊びに行かない？

B はあ。

A 行くの？ 行かないの？

(3)のやり取りでは、「はあ」を肯定的な応答と捉えることには無理がある。話し手Aはyes-no 疑問を提示しており、肯定か否定のどちらかの応答が期待される場面である。が、(3)の「はあ」はその期待に答えていない。いわば曖昧な応答であると捉えるのが自然な解釈であろう。

したがって、(1)(2)と(3)を説明するためには肯定とは異なる何らかの統一的な枠組みが必要であることが分かる。ここでは、富樫(2006)で示した心内処理に関する二区分「情報そのものの処理」「情報提示行為の処理」を援用して考えていきたい。

「はあ」の意味を捉えるには情報提示行為の概念が有効であるといえる。(3)は相手の発話をただ受け止めただけ、情報提示行為の受容のみを示しているのである。その観点に立てば、(1)(2)もまた提示の受容と見ることが可能である。相手の発話を「聞きました」とマークするのがいずれの例にも共通する特徴であるとすることができる。

次の例を見てみよう。

(4)A ちょっと手伝ってください。

B1 はあ。

B2 はあ。分かりました。

B3 はあ。…分かりました。

情報提示行為の受容が本質であるとする、肯定の意味は後続発話が担うことになるのではないか。(4)では、B1～B3いずれもが肯定的な応答と解釈可能であるが、B2やB3のほうが（B1と比べて）肯定の意味が明確になる。ということは、受容の表示を「はあ」が担い、肯定表示を「分かりました」が担うと考えられ、「はあ」は肯定とは本質的

意味のレベルで無関係であるといえるのである。

森山(1989)の“聞き取り表示”がここでの考え方にもっとも近い。また、仁田(1997)の挙げる「受け応え」の三分類のうち、「言語行為の受信者を定立するもの」としての「返答」にも近い（他の二つ「応答」「回答」は発話内容に踏み込んだ受け応えとしている）。一方、富樫(2001)の指摘はやや外れている。半活性情報との関わりの多寡というあやふやな基準で説明するよりも、「はい」「うん」とはそもそも処理の観点が異なるのである、と位置付けたほうが明確である。

「はあ」の本質は情報提示行為の受容であり、情報そのものの受容処理には対応していない。さらにその証左となる例を次に挙げる。

(5)A あのー。

B はあ。

A すいません、ちょっと質問が。

B はあ。

(6)A ええとー。

B ??はあ。

A ちょっと聞きたいことがあるんですけど。

B はあ。

似たようなやり取りであるが、「はあ」の可否に差が生じる（はず）。

「あのー」は言語編集の表示、「ええと」は検索処理の表示という意味を持つ感動詞である（定延・田窪(1995)）。言語編集とは「相手にどう伝えるか」を前提とした心内処理である。よって、相手へ語りかけようとする態度が必然的に読み取れる。そのため、「あのー」の発話時点で聞き手Bは情報提示行為（のきっかけの発話）と捉え、「はあ」で反応することができるのである。

一方、「ええと」の発話時点では「はあ」で反応することが難しい。「ええと」は自身の心内での検索処理表示であり、相手への働きかけは含意されないといえる。「はあ」による反応が不自然になるということは、検索処理つまり情報そのものと関わる処理が「はあ」発話の背後にはないということになる。もちろん、(5)(6)ともに二番目の「はあ」は情報提示行為の受容であるため自然になる。

次の(7)も同じような説明ができる。

(7)A ☆#●♂△…

B??はあ。

話し手Aの発話が聞き取り不可能であるという場面であるが、聞き取れない以上、それが情報提示行為なのか、聞き手Bへの働きかけなのかすら判別不明である。そのため、「はあ」による反応が不自然になってしまう。

(8)A この説明で分かりましたね？

B1 はあ、はい。

B2 ??はい、はあ。

(9)A この問題、分かる？

B??はあ、はあ。

(8)のように、「はい」と「はあ」の語順は入れ替えができない。富樫(2002)を踏まえれば、「はい」は得られた情報そのもの（と半活性情報との関わり）の処理を示す形式である。情報そのものの処理を示した後で、情報提示の受容を示すのは手順が前後している。(8)B2が不自然になるのは、「はあ」が情報そのものの処理と対応していないことの根拠となる。

(9)は繰り返しの例である。「はあ」はいわゆる応答の場面では繰り返すことができない（あいづちなら、やや間を置けば繰り返し可能?）。これも一回の情報提示の受容は一回限りであるためである。「はい」「うん」が繰り返し可能なのは情報そのものへのいくつかの側面からの処理が繰り返されているため。

ここから、「はあ」の本質が何らかの受容の表示であり、その何らかは情報提示行為に限られるということが分かる。これらの観察から「はあ」の本質的な意味を以下のように記述する。

(10) 「はあ」の本質的意味 : 情報提示行為の受容処理を示す。情報そのものの受容・処理は示さない。

このように考えると、「はあ」は狭い意味での（「はい」「うん」と同質の）肯定応答の形式ではないことになる。

3.2. 何故、「はあ」は肯定応答と解釈されやすいのか

森山(1989)を引用する。

- (11)「聞き取りの表示だけで、自動的に、その話し手の意図を了解したという意味になる」(森山(1989:76))
- (12)「談話進行においては、肯定的認定の反応が基本であるということであろう」(森山(1989:82))

これまで「はあ」が肯定応答の一種と位置付けられてきたのは、結局のところ、「聞いていること」自体が相手への歩み寄り(肯定的な態度)と解釈されるためである。しかし、それはあくまで見た目の解釈でしかない。本質を探ると、前節のような“肯定ではない”という分析ができるのである。

→要は、語用論的な効果。語用論関係でもう少し補足説明できそう。

3.3. 何故、かしこまった態度と解釈されやすいのか

「はあ」には、渡邊(2015)も指摘しているとおり、ある種の丁寧さが含まれている。

- (13) (友達から誘われる)
 - A ねえ、ご飯行かない?
 - B はあ。
- (14) (同僚から誘われる)
 - A ご飯に行きませんか。
 - B はあ。

受容か肯定かはさておき、友達同士のような親しい間柄では「はあ」を用いにくい。(14)のようなかしこまった場面・相手に用いるのが普通である。各種の国語辞典類でもその点が記述されている。

- (15) はあ《感》 ①やや改まって相手のことばに同意するときに発する語
(『明鏡国語辞典』第二版)

渡邊(2015)が「はあ」の持つ丁寧さを指摘した唯一の論考であるが、辞典の記述を流用しただけで、それが何故なのかについては議論していない。ここでは「はあ」が丁寧さ・かしこまった態度を示すことについての仮説を示す。

「はあ」は情報提示行為に対する反応である。逆の見方をすれば、情報そのものには反応していないため、情報に触れていない（触れようとしない）と捉えることもできる。このことが、“回避的な態度”につながっていく。

(16) 提示行為への反応 = 情報そのものへの無反応 → 回避的態度の表出

また、回避的態度は一方で“敬避的な態度”に派生する。敬語表現に代表されるようなネガティブポライトネスとして機能する。いわゆる親密さの逆の方向性である。

(17) 回避的態度 → 敬避的態度

このような派生を考えると、「はあ」発話の解釈が敬避的なレベルに至った場合に、かしこまった態度・改まった態度を有するといえる。(3)のような反応が必ずしもかしこまった態度と解釈されず、曖昧な応答あるいは心理的な距離を取っていると解釈されやすいことから、「かしこまり」（敬意・改まった態度）は「はあ」が本質的に含有する意味ではないことが分かる。

→もしかしたら、回避的態度が、ある側面では「かしこまり」、別の側面では「よそよそしさ」を示すといったほうがいいかもしれない。そこら辺の理屈は要検討。

→また、yes-no 疑問だったり、命令だったり、相手が期待する反応が何かによって、回避になりやすいか敬避になりやすいかが変わってくるか。以下の例を参照。

(18)A 出てってよ！ (→命令・非丁寧だとよそよそしさ)

B はあ。

(19)A 暑いですねー。 (→挨拶・丁寧だとかしこまり)

B はあ。

4. 肯否応答体系

「はあ」を情報提示の受容表示と捉えるとする、他の応答詞との関係はどうなるのだろうか。富樫(2006)の説明基盤を援用し、肯定(的)な応答表現においても、背後の心内処理には「情報そのものの処理」と「情報提示行為の処理」の二区分があると仮定し、いくつかの応答詞を体系化してみる。

今回は肯定的な「はい」「うん」「はあ」と否定的な「いや」「いえ」「いいえ」を取り上げる。

		はい	うん	はあ		いや	いえ	いいえ
情報そのもの	受容	○	△	×	不整合	○	○	○
情報提示行為	受容	○	○	○	不整合	○	△	×

図1 心内処理から見た日本語応答詞

- 同一観点の心内処理でまとめたらこんな感じ。
- 情報そのものの「はい」「うん」については富樫(2002)で分析済。否定の「いや」「いえ」「いいえ」については富樫(2006)で分析済。
- 情報提示行為の「はい」「うん」はこれまで扱っていないが、いわゆるあいづちとかに用いられる表現なので、それほど問題なく“○”と説明可能である。
- 体系化のポイントは“肯定”“否定”“応答”という概念を使用していないこと。

5. 今後の課題

- ・「はあ」の意味記述に関してはほぼ完成? 用例をたくさん挙げて固めていく。
- ・体系化に関しては「ええ」と「ううん」がまだ。あと、そもそもこれでいいのか?
- ・wh疑問に対する反応の分析。

(20)A 会議はいつからですか?

B ?はあ。明日の10時からです。

(21)A 会議はいつからですか?

B??はあ。分かりません。

→本質的には提示の受容であるから「はあ」による反応は自然になるはずだが、多少の違

和感が認められる。「はあ」の示す“見た目の肯定”と疑問詞疑問が期待する回答との齟齬によるか？ 「はあ」と後続発話にポーズが置かれるとやや許容度は上がる。

→「はあ」の提示受容と見た目の肯定との（ある種の）矛盾は定延(2005)等が扱っている「さあ」に似た感じ？ (20)よりも(21)のほうが許容度が低ければの話。

・発話パターンの豊富さとの関係。

→体系の図で○が多いものほど、さまざまな発話パターンが可能となる。例えば「はい」ならば、繰り返しも可能、繰り返しのイントネーションパターンも二種類可能、「いや」も同様。逆に「はあ」や「いいえ」はそもそも繰り返しが不可能。「うん」「いえ」は繰り返し可能だが、イントネーションパターンは一種類のみ。

→そこら辺からも体系を精緻化できそう。

参考文献

- 沖 久雄(1993) 「肯定応答詞と否定応答詞の体系」『日本語学』Vol.12, No.4, 明治書院.
- 定延利之(2005) 『ささやく恋人、りきむりポーター 一口の中の文化一』岩波書店.
- 定延利之・田窪行則(1995) 「談話における心的操作モニター機構 一心的操作標識「ええと」「あの一」」『言語研究』108, 日本言語学会.
- 滝浦真人(2008) 『ポライトネス入門』研究社.
- 田窪行則・金水敏(1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」, 音声文法研究会(編)『文法と音声』, くろしお出版.
- 富樫純一(2001) 「情報の獲得を示す談話標識について」『筑波日本語研究』6, 筑波大学文芸・言語研究科.
- 富樫純一(2002) 「「はい」と「うん」の関係をめぐって」, 定延利之(編)『「うん」と「そう」の言語学』, ひつじ書房.
- 富樫純一(2005) 「肯定・検索・問い返し 一感動詞「ええ」の統一的記述を求めて一」『文藝言語研究 言語篇』48, 筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻.
- 富樫純一(2006) 「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」」, 矢澤真人・橋本修(編)『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』, ひつじ書房.
- 仁田義雄(1997) 「未展開文をめぐって」, 川端善明・仁田義雄(編)『日本語文法 体系と方法』, ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会(編)(2009) 『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版.
- 森山卓郎(1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1, 大阪大学文学部日本学科(言語系).
- 渡邊 真(2015) 「現代日本語「はあ」の意味分析」『言葉と文化』16, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻.